

# 漆製品の応急処置 マニュアル

2013 年度

## はじめに

漆製品が水害などで被災した場合、漆膜が剥落したり、木地が外れたりするなどの損傷が生じ、被災後の資料の取り扱いが困難になることが多い。

そこで、本マニュアルでは、被災した漆製品を現地博物館の学芸員などが資料整理の際に取り扱える程度の必要最低限の応急処置の方法を示すことを目的とし、膠を用いた漆膜の剥落止めを中心に記した。また、本マニュアルで対象としている漆製品は、東日本大震災で被災した宮城県岩沼市教育委員会所蔵の資料である折敷（写真1、2）を対象としている。したがって、ほかの漆製品の応急処置をおこなう際には、本マニュアルを参考に対象資料に適した膠の濃度、接着箇所の固定方法を検討したうえでおこなう必要がある。



写真1 被災した折敷本体



写真2 被災した折敷の破損部品

## 1. 膠水の準備

- ① 膠を精製水に一晩漬けて、膨潤させる。（膠水の濃度は重量比）



- ② 膨潤した膠を湯煎にかけて溶かす。湯煎は 60℃以上にならないように注意する。



- ③ 溶かした膠水の保存は冷蔵保存で5日程度を目安とする。ただし、夏場や湯煎を繰り返した場合には腐り易いため、膠のにおいや接着力を確認しながら使用すること。

## 2. 漆膜の接着

### 2-1 準備する物

- ① 膠水 15%（濃度は対象によって異なるため、10～20%の間で調整する。）
- ② クランプ：接着箇所の固定に用いる
- ③ 洗濯ばさみ：接着箇所の固定に用いる
- ④ 文鎮：接着箇所の固定に用いる
- ⑤ シリコンシート：接着箇所の固定に用いる
- ⑥ ビニールシート：接着箇所の固定に用いる
- ⑦ アクリル板：接着箇所の固定に用いる
- ⑧ レーヨン紙：接着箇所の養生に用いる
- ⑨ ラップ：ビニールシートやシリコンシートの養生に用いる
- ⑩ スポイト（ノズル）：接着箇所への膠水の注入に用いる（ノズルとスポイトの先のサイズが合わない場合、スポイトの口をカッターで削って調整する）
- ⑪ 無水エタノール：接着箇所への膠水の注入の際に用いる
- ⑫ 面相筆
- ⑬ 竹串
- ⑭ ティッシュ
- ⑮ 綿棒
- ⑯ カッター
- ⑰ はさみ



## 2-2 接着手順

### ① 接着箇所の検討

膠水を注入する箇所、固定の方法など接着箇所に適した方法を検討する。接着箇所は、資料を持つ際に一番触ることになる側面を中心におこなう。



### ② ビニールシート・レーヨン紙の準備

接着箇所の大きさ・形状に合わせてビニールシート、レーヨン紙を切る。ビニールシートにはラップを巻く。その際に器物に接するビニールシートの面はできるだけラップの皺が寄らないように丁寧に巻く。クランプを用いる場合は、接着箇所の裏側用のビニールシートを準備する。

### ③ 膠水を注す

接着箇所の浮き上がった塗膜と本体の間に筆でエタノールを少量注す。  
次にスポイトで膠水を注す。隙間の奥まで浸透するように竹串や綿棒で軽く押さえる。  
余分な膠水を綿棒で拭き取る。



### ④ 接着箇所にレーヨン紙をあてる。

レーヨン紙を用いることで接着箇所の押さえに用いるビニールシートに漆膜が接着することを防ぐ。

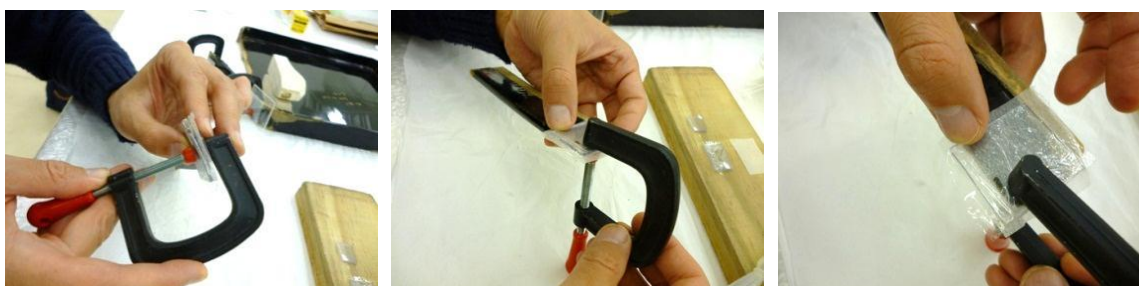


- ⑤ ラップで養生したビニールシートを接着箇所にあてる。  
クランプや洗濯ばさみで挟む場合は接触する両面にあてる。



- ⑥ ビニールシートの上にアクリル板をあてる。  
アクリル板をあてることで接着箇所に均一に力がかかり、漆膜に膠が均等に広がる。

- ⑦ 固定する。  
接着箇所が平面の場合は文鎮をのせ、固定する。接着箇所が立面の場合はクランプもしくは洗濯ばさみで挟み、固定する。



- ⑧ そのままの状態で一晩程度、乾燥させる。



- ⑨ 固定箇所をはずす。  
膠水がにじみ出て、レーヨン紙が接着箇所に着いている場合には、水を含ませた綿棒や筆などでレーヨン紙を軽く湿らせて少し待ち、膠がゆるんだのを確認してゆっくりと剥がして接着具合を確認する。接着箇所に膠が残っている場合は湿らせた綿棒で丁寧に拭き取る。

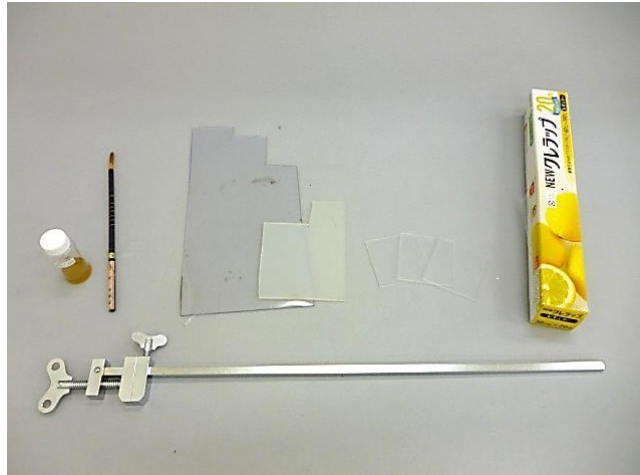




### 3. 木地の接着

#### 3-1 用意する物

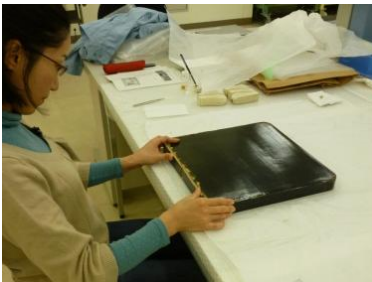
- ① 膠水 30%
- ② ハタガネ：接着箇所の固定に用いる
- ③ シリコンシート：接着箇所の固定に用いる
- ④ ビニールシート：接着箇所の固定に用いる
- ⑤ アクリル板：接着箇所の固定に用いる
- ⑥ ラップ：ビニールシートの養生に用いる
- ⑦ 面相筆



#### 3-2 接着手順

- ① 接着箇所の検討

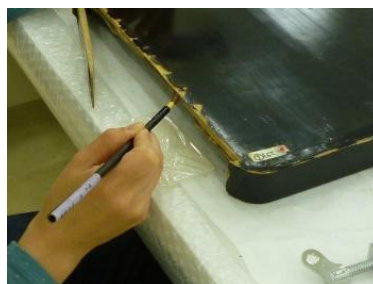
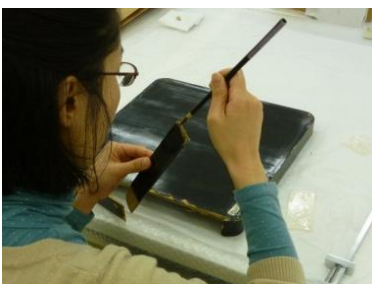
膠を塗布する箇所、固定の方法など接着箇所に適した方法を検討する。



- ② 膠水を筆で塗布する。

固定したときに膠がはみ出さないように接着面の中心部分に塗布する。

膠水の濃度が濃く、固まりやすい（ゲル化しやすい）ため手早くおこなう。特に、室内が寒いときには膠が固まりやすいので注意する。



③ 固定する。

ハタガネで固定する箇所にラップで養生したシリコンシート（またはビニールシート）とアクリル板を重ねあてながら、ハタガネで固定する。

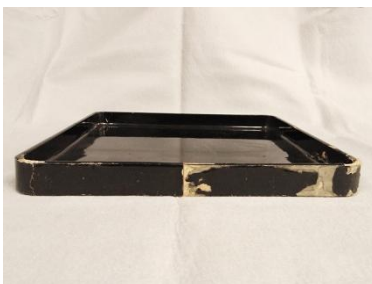
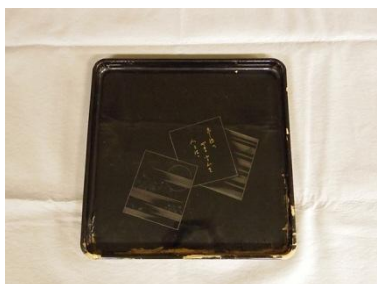
木地のしなり具合を確認しながら、慎重にハタガネを締める。



④ そのままの状態で一晩程度乾燥させる。



⑤ 固定箇所をはずし、接着具合を確認する。



---

漆製品の応急処置マニュアル

2013年12月25日

監修：日高真吾

制作：国立民族学博物館

協力：合同会社文化創造巧芸、北村繁